2新市の都市ビジョン

（1）都市像構築の視点

静岡、清水両市の合計は面積で国内市の最大、人口で政令指定都市に次ぐ規模であり、伝統や文化、学術や技術、人材、清水港等の大規模社会資本、産業・経済、行政などの集積も多様かつ高度である。
このことに地理的位置、中枢拠点性、県庁所在地などの優位性を加味すると、合併により実現する新市は、我が国を代表する諸都市と並ぶ都市能力の獲得を意味し、国内はもとより世界的な拠点都市としての役割を担って行くことが期待できる。
したがって、静岡、清水両市の枠組みを基本とし、30年から40年先の分権型社会を見据え、将来政令指定都市へ移行することも展望しつつ、中枢拠点都市としての影響圏域等まで考慮して、**都市像**を構築する。

（2）目指す都市像

新市を築いていく主役は市民であり、風格ある自立した**市民一人ひとり**が、それぞれの能力に応じた役割と責任を担い、活発な相互作用を繰り返しながら、社会経済環境の変化を的確にとらえて発展・進化する都市を、**新市**が目指していく都市の姿として描き、**都市像**として「心と自然を尊ぶ市民が築く、人間躍動都市」を掲げる。

心と自然を尊ぶ市民が築く、

人間躍動都市

(ｲ)新市は、「受益と負担の選択」を社会運営の原則とする分権型社会の中で、**心と自然を尊ぶ市民一人ひとり**が、まちづくりは市民自らが行うことを自覚し、市民や団体、企業が地域づくりに積極的に参加し、それぞれの役割を担い、連携して、地域の問題を自主的な判断と責任に基づいて主体的に解決することにより、
「協働・共創して地域の可能性を最大限に引き出し、特性を発揮するまち」。

(ﾛ)新市は、災害に強い安全なまちづくりを推進し、配置された複数の都市核と多数の都市拠点等がそれぞれ特色ある機能を集積し、各々の核と拠点間を繋ぐネットワークの充実により市域全体が均衡ある発展を遂げると共に、自然と人間が共生し持続的な発展を可能とする、人と地球に優しく環境と調和した資源循環型社会システムを構築することにより、年齢や性別を問わず**全ての人々**が、
「活き活きと安全、安心、快適に、共に暮らすことができるまち」。

(ﾊ)新市は、恵まれた海・山・川の自然や優れた歴史、文化などを活かしたグレードの高い都市機能を備え、生涯を通じて学び人材を育む空間を提供することにより、**市民一人ひとり**が多様な価値観を認めあい、「住む」「働く」「学ぶ」「遊ぶ」「憩う」「育む」「癒す」などの様々な局面でそれぞれの個性や能力を十分に発揮し、世界に誇れる
「多様で高次・高質なライフスタイルを実現できるまち」。

(ﾆ)新市は、地域に伝わる伝統や技術、学術・文化機関の優れた人材、首都圏と中京圏の中間に位置する中枢拠点性、県都として厚く集積する行政や企業、清水港や第二東名、中部横断道、静岡空港等の高度に整備された大規模社会資本など、**承継**した地域資源を最大限に活かして、**市民や団体、企業**が、新世紀をリードする
「新たな文化や産業を創造し、国内外に積極的に発信するまち」。

(ﾎ)新市は、恵まれた自然や地域に伝わる伝統や技術、優れた歴史、学術・文化、人材、中枢拠点性、県都として集積する行政や企業、高次・高質な大規模社会資本、陸・海・空の結節点として一層充実した国内外との交流ネットワーク等により多くの人々が訪れ、住む人と一緒ににぎわいを創出する
「国際性豊かなヒト・モノ・情報があふれ、活発に行き交うまち」。

（3）都市像を支える理念

目指す都市像**「人間躍動都市」**を築いていく主役は**「心と自然を尊ぶ市民」**である。
「目指す都市像を支え」、新市を協働・共創して築いていく市民と団体や企業、そして都市づくりの推進に中核的な役割を担う行政の、**新市を実現するためのよりどころとする理念**は、**「自立と参加」**、**「共生と持続と循環」**、**「承継と創造と交流」**である。

(ｲ)これから我が国で築こうとしている分権型社会の中で、新市が特色ある地域として発展・進化していくためには、**市民一人ひとり**が、自ら決定し自ら責任を取る**市民として「自立する」**ことと、地域づくりにおいてそれぞれが役割と責任を担い、連携し、行動し、「**参加する**」ことが求められる。

(ﾛ)少子・高齢・成熟社会において、新市の**全ての人々**が様々な局面で多様かつ高次・高質なライフスタイルを実現し、良好な環境を次代に引き継いで行くためには、市民一人ひとりが、それぞれ異なる個性や能力、多様な価値観を持つことを認めあい、異なる人々が「**共に生きる**」都市空間と、自然と人間が「**共生し、持続的な**」発展を可能にする環境と調和した「**循環型**」の社会システムが欠かせない。

(ﾊ) 21世紀に到来する大競争、大交流時代において、**新市**が競争力ある地域として他と比較して優位に存立し、将来も中枢拠点都市として発展・進化し続けるためには、自然、歴史、伝統、文化、学術、技術、人材、社会資本、交通の結節点などの地域資源を「**承継し**」、それらを最大限に活かして新たな文化や産業を「**創造し**」、発信し、ヒト・モノ・情報が活発に「**交流する**」ことが期待される。